1．アジア諸国の植民地化

南アジア

（イギリス）東インド会社：インドほぼ全域を植民地化（19C半ば）→

（1）（1857~59）：（2）（インド人傭兵）が反乱を起こす。→（3）（1877～1947）（イギリスが直接統治）の成立。

（4）｛（5）派｝の結成（1885）→イギリス人が（6）（1905，1911に廃止）を出し、

ムスリムとヒンドゥー教徒の分断を図り、親英的な（7）（1906）を結成させる→インド全域で、（8）（民族独立）、（9）（国産品愛用）を要求する反対闘争。

東南アジア

（10）：16C後半～スペイン領→19C末にアメリカ領に。

オランダ：（11）島（12）で（13）、（14）を実施→（15）（20C初め）の成立。

イギリス：（16）、（17）島などを植民地化→（18）を形成。3度の（19）の末、

ビルマ（ミャンマー）をインド帝国に併合

フランス：（20）を侵略し、（21）（1867～1945）を成立させる。

19C末には（22）だけが独立。※（23）が近代化。

（24）貿易（19C半ば）

イギリス　　　　　　　　　（25） 中国（清）



　　　（26） （27）

インド



※（28）が用いられ、イギリスが得をするようになっていた。

（29）（1840～42）：（30）によりアヘン密貿易取り締まりに対し、イギリスが清を攻撃

→（31）により清が開国。（32）がイギリスに。

2、辛亥革命 p.138~151

日本

朝鮮半島をめぐる（1）（1844～95）で勝利→（2）で（3）のみ獲得。中国東北部をめぐる（4）（1900～05）で勝利。

※（5）（1902）。朝鮮で閔妃殺害事件（1895）。（6）を弾圧して、（7）（1910）

中国

（8）（1851～64）：キリスト教の影響を受けた、（9）の乱、（10）（1856～60）：英仏連合軍が清での利権拡大を狙って起こす→（11）を結ばせ勝利した英仏が清の内乱鎮圧に協力。

（12）（1898）：明治維新に倣って（13）を説く（14）らの運動が（15）ら保守派の反撃にあい失敗

（16）（1960～01）：「扶清滅洋」を唱える義和団が北京に入るが8か国連合軍に敗れる、清は（17）に調印させられ、半植民地化がさらに進む。

（18）が東京で（19）を結成（1905）「民族、民権、民生」の（20）を掲げる→武昌で清朝軍が反乱を起こし、（21）（1911～1912）に発展→（22）が南京に成立（孫文が臨時大総統）→（23）（清朝軍の軍閥）が（24）の退位を条件に孫文の地位を継承し、独裁化。

→中国は分裂状態に。

西欧（先進資本主義国）

19C末～（25）：エネルギー源は（26）。（27）の時代を迎え、（28）が生まれる。

※（29）、（30）（（31）など）、（32）や（33）の流行。（34）の整備、（35）への移住、（36）の展開、（37）の発展。

3．帝国主義 p.152~157

19C末～ヨーロッパ列強が武力を背景に新たな植民地争奪戦→侵略的で植民地統治を伴う領土拡張主義を（１）という。

※日本・アメリカ{（２）を倒し、1898にハワイ諸島併合}も参加。

アフリカ：ベルリン会議（1884～85）の決定に従って（3）と（4）を除き、列強により分割、植民地化。

（5）（1899～1902）：オランダ系ボーア人に対し、イギリスが勝利→白人優遇策（6）（人種隔離政策）に進展。

※アフリカ分割によって引かれた人為的な境界線は、現地の民族や文化・社会、習慣の違いを無視し、各地で対立や抵抗を起こす。現在の内戦、紛争の原因。

19C後半～1920頃　（7）（中国人/漢人の海外移住者）や（8）（インド系移住者）など大規模な人口移動の時代、日本人は九州沖縄・中国地方などから、（9）に移住。プランテーションで働く。※10C末 ロシアでユダヤ人「大迫害（10）」→7割がアメリカへ移住。

（11）：（12）（1891～94）、（13）（1904）、（14）（1907）によって成立。イギリスの（15）政策：ケープタウン・カイロ・カルカッタを結ぶ。イギリスがドイツと対立して、ロシア・フランスと協力。

（16）（1882～1915）（ドイツ・イタリア・オーストリア）：ドイツの（17）は「世界政策」を推進。ドイツの（18）政策：ベルリン・ビザンティウム（イスタンブル）・バグダードを結ぶ。

オスマン帝国：（19）（1908）により民主的な（20）が復活。バルカン半島は「（21）」→2回の（22）（1912～13）、ロシア中心の（23）主義vsドイツ中心の（24）主義。

4．第一次世界大戦 p.158~161

1908 オーストリアが（1）を併合→1914 南スラヴの統一を目指すセルビア人青年がオーストリアの帝位継承者夫妻をサライェヴォ（ボスニアの州都）で暗殺｛（2）事件}

→オーストリアがセルビアに宣戦→列強の参加→（3）へ（1914～18）。

（4）：独・オーストリア＋オスマン帝国・ブルガリア

（5）：露・仏・英・日＋伊（1915～）・米（1917～）

（6）：（7）で仏軍が独軍を阻止。（8）：（9）で独軍が露軍を破る。

どちらも戦争が長期化し（10）となる。

※（11）、（12）：飛行機、潜水艦などの新兵器、（13）、インドなど植民地からの兵士派遣、イギリス中心に（14）。（15）事件（1915）→ドイツの（16）作戦（1917）→アメリカの参戦→（18）事件：労働者のデモに軍隊が発砲し、多数の死傷者が出る。

1917 （19）①（20）：首都ペトログラードで労働者がパンを求めてデモ→（21）の結成。臨時政府の樹立。（22）（ロマノフ朝）の退位。

②（23）：（24）（のちの共産党）の指導者（25）が「すべての権力をソヴィエトへ」、「パンと平和と土地」をスローガンにソヴィエト政権を樹立。

ドイツと（26）（1918，3）→革命の波及を恐れた英・仏・米・日が（27）（1918～22）を起こす。→ロシアが（28）を導入。※（29）（ソヴィエト政権側）が「反革命勢力外国軍」に勝利（～1920）。1922 （30）が成立。

5．ヴェルサイユ体制 p.162~171

（1）（1919）：アメリカの（2）大統領が「十四か条」の講和原則を提案→（3）により、ドイツは植民地を失い、軍備制限と巨額の賠償金支払いを課せられる→（4）体制（ヨーロッパの新秩序）の形成。（5）の発足（1920）

（6）会議（1921～22）：アメリカや日本などが海軍軍備制限などを確認。アメリカ主導の（7）体制（東アジア・太平洋の新秩序）の形成。※1920年代のアメリカ・繁栄の時代。

（8）が暴力で黒人を迫害。

ドイツ：民主的な（9）憲法を持つ（10）（1919～33）となり、（11）が協調外交を展開。

1925 （12）条約：ヨーロッパの集団安全保障体制を定める。

1928 （13）条約：国際紛争の解決に戦争を手段としないことを決める。

（14）革命：（15）（「トルコ人の父」）と呼ばれた（16）が、オスマン帝国のスルタン制を廃止（1922）、（17）を樹立（1923）。（18）：イギリスによる多重の秘密外交が直接的要因。

①（19）（1915）：アラブ人移住地の独立を支持。

②（20）（1916）：パレスチナなどを英仏らの国際管理下に

③（21）（1917）：パレスチナをユダヤ人の民族的郷土に。

（22）：イギリスに対する（23）を展開→インド全土に拡大。例）糸車の操作。塩の専売制度に反対する「（24）」（1930）

6．ファシズムの台頭 p.172~179

朝鮮：（対日）（1）（1919）→武力弾圧から同化政策へ。

中国：（対日）（2）が高まり、孫文が（3）を結成（1919）。（4）らが（5）を結成（1921）→（6）（1920）。（7）：（8）を進め、南京政府を建て（1927）、中国をほぼ統一（1928）

（9）（1929）：ニューヨークで株価の大暴落。恐慌が世界中に拡大。

（10）がアメリカ大統領に。（11）（テネシー川開発計画など）に着手（1933）。

※イギリスなど：（12）化

（13）：（14）（1928～32、1933~37）で工業化を進め、（15）による農業集団化を推進。

一方で、「大粛清」。

（16）：反共産主義を掲げ、暴力や対外侵略によって国民統合を図る独裁体制。極端な人種偏見や領土拡張主義を唱える。

イタリア：（17）率いる（18）政権（1922～43）→エチオピア侵略（1935）。

ドイツ：（19）（1934～（20））率いる（21）政権（1933～45）。

（22）（1933）で一党独裁へ。（23）（1935）。ドイツ民族の優越を唱え、ユダヤ人を迫害。

巧妙な宣伝活動（集会やパレード）

スペイン：（24）（反ファシズムの連合）内閣が成立（1936）→（25）将軍らが反乱を起こし、内戦へ→（25）側の勝利（独伊が支援）（1939）。

※（26）の「（27）」：ドイツ空軍による爆撃への抗議を込める。

7．第二次世界大戦 p.180~184

（1）（1931）→傀儡国家の（2）建設（1932）。（3）を皇帝に。共産党が内戦停止と（4）の結成を呼び掛ける→（5）（1936）→（6）（1937～45）。※1937 （7）。（8）協定。

日本軍：中国人に対して細菌・毒ガスを使用、三光作戦や生体実験を行う。

1938 ドイツ：オーストリアを併合→（9）で宥和政策→失敗。1939 ヒトラーがチェコスロバキアを解体し、（10）を結ぶ。9月にポーランドに侵攻し、英仏が宣戦布告。

（11）へ。（1939～1945）。※ソ連もポーランド東部・フィンランドに侵攻し、バルト三国を併合。

1940 ドイツがデンマーク、ノルウェー、オランダ、ベルギー、フランスを占領。

※6月にパリ占領、南部に親独のヴィシー政権が成立。

（12）がロンドンに亡命政府を作り、（13）を指導。1941 ドイツがユーゴスラヴィア・ギリシアを制圧。ソ連に侵攻し、（14）へ。

※（15）（1942～）・（16）などの絶滅収容所などで大量殺害（17）。

※（18）（1941）：（19）（英）とF・ローズヴェルトの会談。（20）につながる。

日本：（21）同盟（1940）と（22）条約（1941）を結ぶ。→マレー半島と真珠湾を攻撃（1941，12/8）、（23）へ（1941～45）。「（24）」建設をスローガンに東南アジアを占領。

※占領地域を植民地支配し、連合国軍の捕虜や現地の労働者に強制労働させる。

米軍：（25）（1942）から反攻に転じる。